

1/700

WATER LINE SERIES



JAPANESE
AIRCRAFT CARRIER

UNRYU 雲龍

ウォーターラインシリーズ NO.205
航空母艦(うんりゅう)
JAPANESE AIRCRAFT CARRIER

PHOTOGRAPH BY SHIP MODELING MAGAZINE



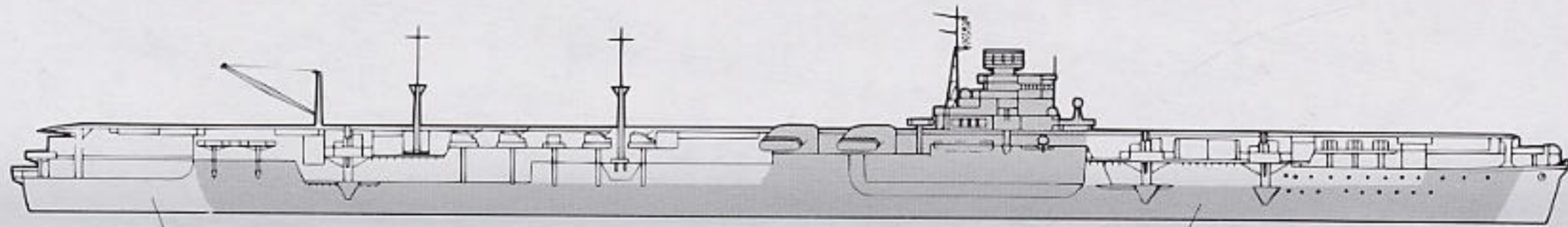
AOSHIMA



<航空母艦雲龍について>

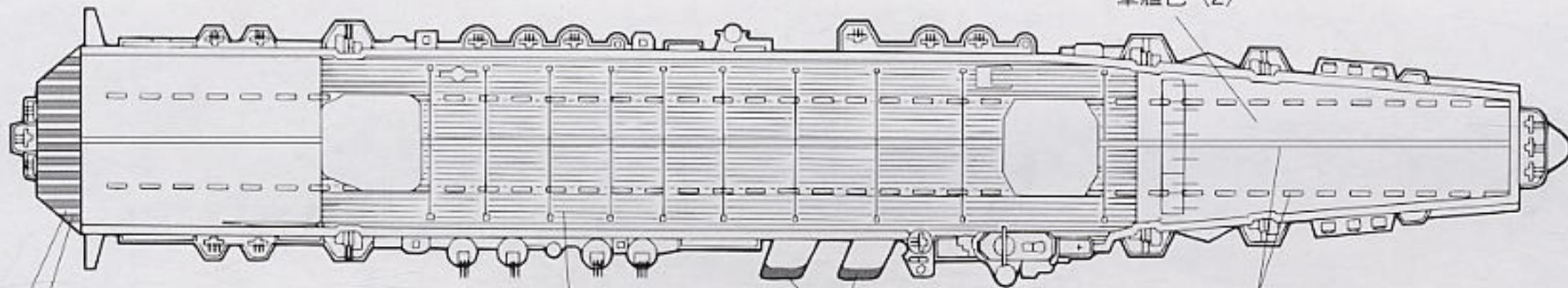
日米開戦必至という状況下で日本軍は、空母3隻を含む戦時建造計画を立案した。その中に「飛龍改」と呼ばれる中型空母1隻の建造が含まれていた。これが後の「雲龍」であり、開戦という事態によってその建造・完成が急がれるので、「飛龍」の設計図を流用・改訂して行われることになった。昭和17年6月に起きたミッドウェー海戦において4隻の空母を失った日本軍、早急に空母陣の立て直しを迫られる事になった。この対応の一つとして、建造中の艦を空母へ改造するなどの対策がたてられたが、航空機搭載力・建造工程などが検討された結果、日本軍は「雲龍」型空母を量産して戦力の充実を維持していくという方針を採用し、合計15隻が計画された。「雲龍」は昭和17年8月1日に起工、昭和18年9月25日進水、昭和19年8月6日に竣工した。しかし、当時の状況は航空機も塔乗員も不足しており、搭載すべき航空部隊も引き抜かれ戦力にはなり得なかった。竣工から4ヶ月後の昭和19年12月19日、米潜水艦「レッドフィッシュ」の雷撃で撃沈されてしまった。

基準排水量	17,480t			
全長	227.35m			
水線長	223.00m			
最大幅	22.00m		出力	152,000馬力
主機	艦本式タービン	4基	速力	34ノット
主罐	口号艦本式	8基	飛行甲板全長	216.90m
軸数		4軸	前端幅	16.00m
			中央幅	27.00m
			後端幅	17.00m
備砲				
89式12.7センチ連装高角砲		6基		
25ミリ3連装機銃		21基		
12センチ28連装噴進砲		6基		



つや消し白2+青1+黄少量

軍艦色 (2)



つや消し赤
つや消し白

ライトブラウン

つや消し黒

つや消し白

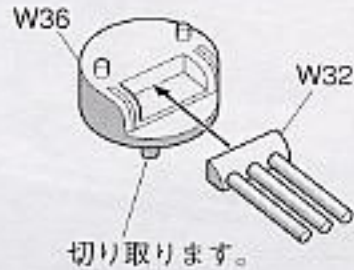
1

※6組作ります。

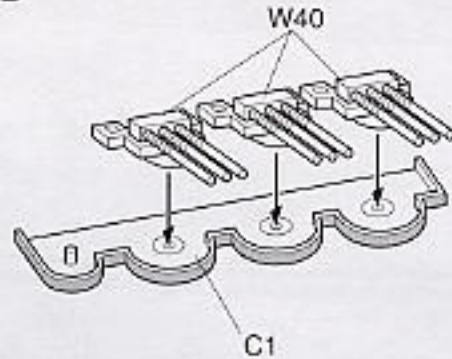


2

※4組作ります。



3



4

